**7月5日　高知県安芸郡馬路村　村長　上治 堂司 氏**

**問１　学んだこと、印象に残った言葉、講師へのメッセージ**

「馬路村は地域のブランド化で大成功をおさめた村だよ」と母親から聞いたことがあった。

なぜ小さな村であれほどゆず産業で成功し、全国に（世界に）知られるようになったのか・・・。私は、今日のお話を聞いた結果、馬路村が自分たちの地域の良さを自覚し何をブランドにすべきなのかわかっていたことが原因かなと思った。ゆずとともに「村自体をブランドにして売り出す」というワードが印象的だった。私も将来は地元のまちおこしをやりたいと思っているのだが、私の地元は何が地元の良さなのかわかっていない状況だと思う。ないものねだりで無理な企業勧誘ばかり提案されている。なぜあるもので勝負していこうとしないのだろう・・・。バッグのブランド化も夢のような成功ぶりで感動ものだ。これだけ売れたらどこの村でも自分の村に自信が持てて、活性化も進むのだろう。（経営　経営システム１年）

村というと“田舎”というだけのイメージでした。（人が減るとともに住人の元気もなくなっていくという具合に。）しかし、日本人の原点、大都市の原点ととらえて地域の活性化に意気込んでいるのはすごいなぁと感じました。うちわの宣伝の、「相手に思いを伝えましょう」という観点に立ったところ、温泉の繁盛のための「女性をターゲットにした経営」「風呂上がりの客を狙った弁当作り」を行ったところは一般企業と変わらない経営方法だと感じました。やはり、村の活性化のためにはそれくらいの事業が必要なんですね。あと、「真似した側が成功しても、まねされた側は失敗ではない」という考えを持ったことがありませんでしたが、話を聞いて、“確かに”と思いました。これからは僕も「第一人者」を目指して、様々なことに取り組みたいと思います。(経営　経営　1年)

「「森の風/香りをお届けします」の一言があるかないかで大きく変わる」という言葉が印象に残った。なかなか物が売れないときに、物に添えた一言が大きな力を発することが多いらしい。コピーライターのセンスももちろん大きな要因だろうと思うが、ただ物を売ろうというのではなく、そのものを届けたい、大切に使ってほしいと思う気持ちが大切なんだなと思った。（経営学部・経営学科・1年）

正直、今日の講演を聞くまで「どうして経営からのお話を聞くこの講義に村長さんがいらっしゃるのだろう？」と思っていました。今まで来ていただいた講師の方はみなさん企業の社長、という方々が多かったからです。しかし、お話を聞いて、村長さんはこんなにも経営力が必要なのかとても驚きました。（経済学部・経済システム学科・１年）

私は地方出身で都市部と地方での壁を感じている。地方には都市部にあるものがほとんどなく、とても不利な状況にあると思う。そんななか「村」という貴重な存在でありながら成功している馬路村のお話はとても興味深かった。まず「特別住民票」。これの特典の一つとして村長とジュースを飲める、というのは「村」という特性を生かしたおもしろい企画だと思った。また村の資源であったゆずの販売について、村全体として応援することによって消費者の心をつかみ、このようなバックアップも「村」だからこそできることだと思った。村であることを短所にせず逆に長所に変えていく戦略が素晴らしい。（経営 会計情報1年）

日本人は少ないものを大事にしようとする→「村」をそういうものとして認識させたい。

ネットは田舎のもの！ただ便利なツールではない。モノがとれる・作れる環境でもそれを外に発信する力がなかった。しかしネットがあれば村と外を容易につなげる。この発想は地方創生にあたり必須ともいえるものであり、田舎にビジネスを成立させる素晴らしいものだと感じた。「ビジネスが自己満足で終わったら意味がない」この授業の講師は起業家やベンチャービジネス関係者が多いが、今回の地方の話でこの言葉が聞けるとは思わなかった。やはり外に明確な目的をもってはたらきかけることがビジネスには欠かせないと思った。自分の強みを知り、ターゲットを絞ることで効果的な経営戦略を立て、少しずつでも確実に成功へとつなげている新しい実例を見ることができて非常にためになった。(経営　経営2年)

今までの講義では起業ということにおけるリーダーシップを学んでいました。しかし今回は違いました。“まちづくり”ということにおいてもいかにリーダーシップが必要か、リーダーシップがなぜ必要か、を学べました。特に印象的だったのは村長さんをはじめとした村人たちが自分の地域の特徴を見極めて、それをいかに活かしているか、ということについてです。小さい村だからこそできるまちづくりや地域活性を行う、それはリーダーシップそのものなのではないかと思います。そしてその努力は常に続いていました。上手くいくことがあっても決してそれで止まることなく、より良いものを目指す、そんな姿が見られました。その中で大切なのは、広い視野を持つということだと思います。お話の中でも、どの特産品を生かすのか、誰に向けて企画するのか、など様々なことに言及していました。広い目で物事を見て革新的なアイデアを生み出せる人間に私もなりたいと思いました。(経営学部・会計情報学科・1年)

最初、村長さんが講演にいらしてくださると聞いてあまり経営とは関係ない話なのかと思っていましたが、実際にお話を伺ってみて、村おこしと企業の経営のノウハウには数え切れないほどの共通点が見られて大変興味深かったです。自分はずっと東京にいたので村の復興と聞いてもピンと来なかったのですが、ブランディングやターゲット設定など、戦略を練るポイントは企業の経営戦略と相違なく身近に感じました。ベンチャー企業の起業家の方々と同じくらい、またはそれ以上の、売り出したいものへの思い入れに感銘を受けました。（経営学部　経営学科1年）

村の強みを生かして都会にも負けない魅力的な風景を創出した馬路村の熱さが伝わってきた講義でした。確かにないものは多いかもしれないけれど、他の市町村にはあまり見られない豊かな自然を十二分に活用していくストロングスタイルは聞いていて気持ちよかったし、こういう村や町が増えてくると日本はもっと面白くなりそうだ。今回の講義では「長所をとことん磨く」ということと、「失敗を恐れず、誰よりも先に挑戦する」ということを学びました。オンリーワンを目指す馬路村は僕の中でナンバーワンです。（経営学部経営学科１年）

**問２　今後のアクションに繋げていきたいこと**

まだ誰も始めていないことを始める、2番目・3番目になる場合はきちんと戦略を練る、といったことが成功の秘訣であると学びました。相手が何を求めているのかをきちんとくみ取り、冷静に戦略を練って、様々なことに当たるようにしたいと思います。村長さんの商売に対して前向きで戦略的な態度を見習いたいと思いました。（理工　数物・電子情報系2年）

村全体、村の環境までひっくるめて、ということでしたが、１つの何かにスポットを当てて押し進めることも大事ですが、やっぱり広いビジョンで全体を動かすような気持ちが大事だと思いました。（理工学部、化生学科、２年）

地元産業のことについて深く考えたことがなかったので、自分の地元について考えていきたいなと思いました。各地方にそれぞれの強みがあると思うので、そういったものに注目して、商売をすることは面白いと思いました。自分の地元について、しっかりと考えるきっかけになると思います。（経営学部・経営学科・２年）

**授業スタッフの感想**

昔から家に馬路村のゆずぽんが常備してあったので、名前を聞いたこともあったし、とても親近感を覚えました。今までこの授業は起業家の方々をお呼びしての講義が中心だったので村長さんが来ると知って驚きましたが、実際にお話を伺って、村を企業に見立てていると感じました。そして、それを成功させて村を有名にさせてしまう村長さんの手腕に驚かされました。

今回はいつもとは違って、地方創生を掲げる村の村長さんの講演であったことから、自分の地元についてもっと知らなければならないと思ったというようなことを書いている人が多かったように思います。現に、自分自身、地元についてもっと知り貢献したいと思ったので、今回の講演で感じたことは忘れずにこれからの大学生活を過ごしていきたいと思います。